

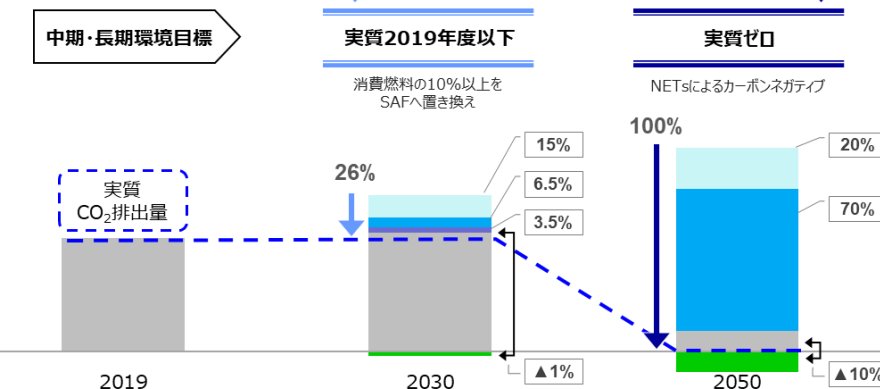
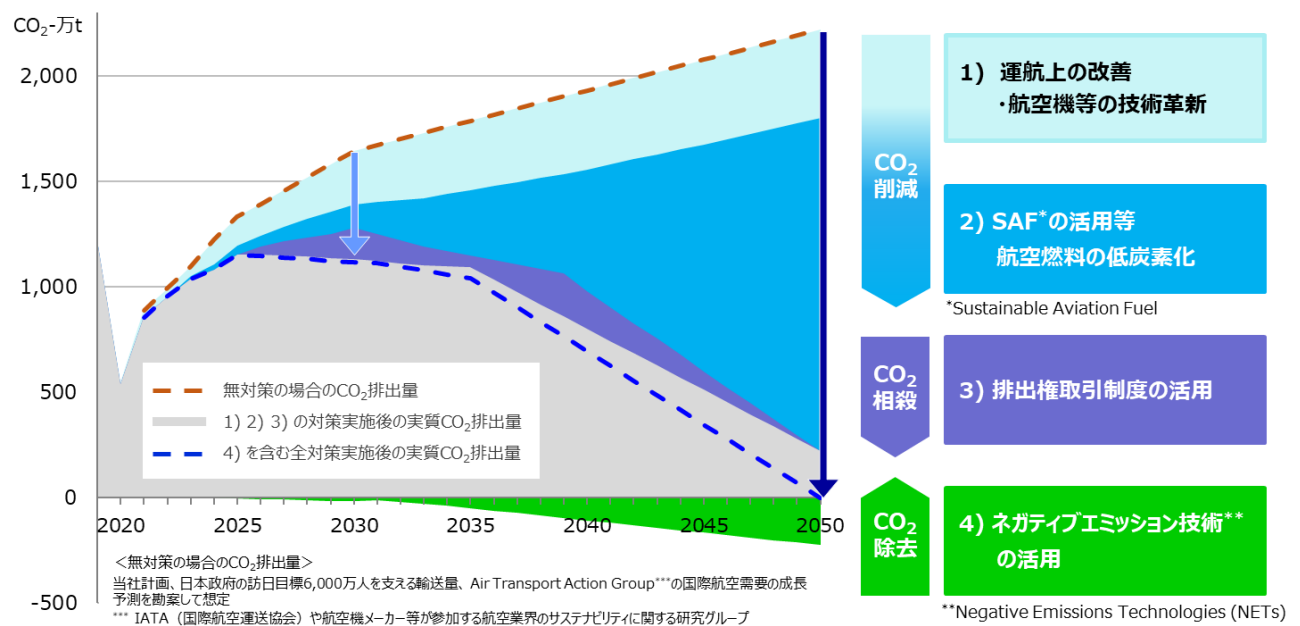
### 1. はじめに

ANA ホールディングス(株) (以下、当社) は、国際資本市場協会 (ICMA) の定めるグリーンボンド原則 (GBP) 2021、環境省の定めるグリーンボンドガイドライン (2022 年版) に基づき、以下の通り、グリーンボンド・フレームワーク (以下、本フレームワーク) 策定しました。当社は、本フレームワークについて、これらの原則等との適合性に関する第三者評価を株式会社日本格付研究所 (JCR) より取得しています。

#### 1.1. ANA グループの ESG 経営、及び脱炭素に向けた取り組みについて

ANAグループは、ESG経営を推進する上で、「環境」「人権」「ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン (DEI)」「地域創生」の4項目を経営の重要課題として掲げています。事業活動を通じて、これらに適切に取り組むことで、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、企業価値の向上を目指す方針です。

重要課題の一つである「環境」については、1998年に「環境に関する基本的な考え方」を整理し、2017年に「ANAグループ環境方針」を制定するなど、以前より、環境負荷の低減に取り組んできました。現在は、「2050年長期環境目標」として2050年度までのカーボンニュートラルを宣言するとともに、その道筋として「2030年中期環境目標」を定め、これらの目標の達成に向けてトランジション戦略を策定しています。



#### <環境に対する基本的な考え方>

- 環境を大切にすることは、私たち自身が地球に負荷をかけていることの自覚から始まります。
- 私たちは、資源とエネルギーを大切に利用し、豊かで持続可能な社会の創造に貢献します。
- 私たちは、率先して環境保全に取り組み、地球を想う心を世界の人々と分かち合います。

#### <ANA グループ環境方針>

ANA グループは地球温暖化対策や生物多様性の保全等の地球環境への取組みを重要な経営課題と認識し、グループのあらゆる企業活動を通じて、環境リーディング・エアライングループを目指します。

1. 企業活動が環境に与える影響を正確に把握・分析し、社会に開示します。
2. 法令遵守に留まらず、広くステークホルダーと対話を重ね、社会の要請に基づき環境保全に取り組みます。
3. あらゆる業務において環境負荷の低減に努め、積極的に新技術・サービスを検討し導入に努めます。
4. サプライチェーンの環境配慮にも常に注意を払い、環境に配慮した調達を推進します。
5. 3R（Reduce Reuse Recycle）と廃棄物管理を強化し、循環型社会の実現に貢献します。
6. 環境保全活動への社員参加を促進し、社員一人ひとりの意識向上を図ります。

#### <2030年 中期環境目標>

1. 航空機の運航で発生する CO<sub>2</sub> 排出量を実質 2019 年度以下にします。
2. 航空機の運航以外で発生する CO<sub>2</sub> 排出量を 2019 年度比 33%以上削減します。
3. プラスチック、紙などの資源類の廃棄率を 2019 年度比 70%以上削減します。
4. 機内食などの食品廃棄率を 3.8%以下に削減します。

#### <2050年 長期環境目標>

1. 航空機の運航で発生する CO<sub>2</sub> 排出量を実質ゼロにします。
2. 航空機の運航以外で発生する CO<sub>2</sub> 排出量を実質ゼロにします。
3. プラスチック、紙などの資源類の廃棄率をゼロにします。
4. 機内食などの食品廃棄率を 2.3%以下に削減します。





### 1.2. 本フレームワーク策定の目的

ANA グループの中期・長期環境目標の達成に向けて、当社は、本フレームワークに基づくグリーンボンドを発行し、トランジション戦略の中核アクション（グリーンプロジェクト）遂行のための資金を調達します。

## 2. グリーボンド・フレームワーク

### 2.1. 調達資金の使途

本フレームワークに基づき発行するグリーンボンドの調達資金は、以下の適格プロジェクトに対する新規または既存の支出、出資・投資資金に充当します。なお、既存の支出、出資・投資資金に充当する場合は、グリーンボンドの発行日から遡って 24 か月以内に実施されたプロジェクトを対象とします。

| 適格クライテリア                          | 適格プロジェクト                                       | SDGs との関係   |
|-----------------------------------|--|---|
| クリーン輸送                            | Sustainable Aviation Fuel (SAF) の購入            |   |
|                                   | SAF の調達量拡大につながる出資・投資                           |   |
| 環境適応製品、環境に配慮した生産技術およびプロセス、高環境効率製品 | ネガティブエミッション技術 (DAC/CCS/CCU 等 (※)) の活用のための出資・投資 |   |

(※) DAC (Direct Air Capture : 大気中の CO<sub>2</sub> の直接回収)、CCS (Carbon dioxide Capture and Storage : CO<sub>2</sub> 回収・貯留)、CCU (Carbon dioxide Capture and Utilization : CO<sub>2</sub> 回収・利用)

### 2.2. プロジェクトの評価および選定プロセス

当社のグループ経営戦略室エアライン事業部、グループ経理・財務室財務企画・IR 部及びサステナビリティ推進部が、適格クライテリア及び適格プロジェクトを選定しました。適格プロジェクト選定の最終確認は、当社の社長を総括、ESG 推進の担当役員を議長とし、当社およびその子会社である全日本空輸(株)等の取締役・執行役員、常勤監査役を委員とする「グループ ESG 経営推進会議」にて行われました。

なお、各適格プロジェクトに関連する潜在的な環境リスク及び社会的リスクと、その低減のための対応は以下の通りです。

#### <潜在的な環境リスク及び社会的リスクと、その低減のための対応>

SAF は、バイオマスや廃食油、排ガスなど、様々な原料から製造されますが、原料の一種である糖料作物については、食料用途等との競合の可能性が指摘されています。この他、SAF 製造等のプロセスにおいては、水の利用、大気・土壌への影響、廃棄物及び化学物質の管理、人権及び労働者の権利等、考慮すべき事項があります。ANA グループは、これらに関して一定の基準を満たす EU Renewable Energy Directive (※1) 適格燃料ないし CORSIA (※2) 適格燃料の SAF を購入します。

(※1) EU Renewable Energy Directive(欧州再生可能エネルギー指令) : EU の定める再生可能エネルギーに関する包括的な持続可能性基準の枠組み

(※2) CORSIA (Carbon Offsetting and Reduction Scheme for International Aviation) : 国際民間航空機関 (ICAO: International Civil Aviation Organization) の下で実施されている国際航空のためのカーボンオフセット及び削減スキーム

航空機の運航時、SAFの燃焼によって排出されるCO<sub>2</sub>量は、基本的に従来の航空燃料を燃焼した場合と同程度であり、SAFの利用によるCO<sub>2</sub>排出量の削減効果は、原料の栽培、収穫、製造、輸送等のプロセスにおける排出量を含めたライフサイクル排出量にて評価する必要があります。ANAグループは、ライフサイクルアセスメントに基づくCO<sub>2</sub>排出量削減率の第三者評価を取得したSAFを購入します。

ネガティブエミッション技術の活用に関しては、プラントを建設する場合の土地造成に伴う生態系への悪影響、事業拠点付近での騒音等がネガティブなリスクとして想定されます。出資・投資を実施する場合、これらについて適切に対応していることを確認します。

なお、ANAグループでは、ESG経営の基盤をより強固にするため、グループ全社員が共通して守るべき行動準則として、「社会への責任ガイドライン」を設けています。本ガイドラインは、各国・地域の法令順守、人権・多様性の尊重、環境への配慮等について定めています。

### 2.3. 調達資金の管理

本フレームワークに基づき発行するグリーンボンドの調達資金の充当と管理は、当社のグループ経理・財務室財務企画・IR部が行います。財務企画・IR部にて、適格プロジェクトの予算と支出を内部管理するシステムを用意し、これによって調達資金の充当額と未充当額を確実に追跡します。また、充当額と未充当額の合計が、調達資金の合計額と整合するよう、定期的に確認を行います。なお、調達資金は、適格プロジェクトに充当するまでの間、現金または現金同等物にて管理、もしくは譲渡性預金等、安全性及び流動性の高い資産で運用します。

調達資金は、グリーンボンド発行日の3年後の応当日が属する会計年度の3月末日までに充当を完了する予定です。

なお、調達資金の出資・投資資金への充当に関連して、出資・投資先の売却等により未充当金が発生する場合は、当該の未充当金を、他の適格プロジェクトに充当します。

## 2.4. レポーティング

### 【資金充当状況レポーティング】

当社は、調達資金の全額を適格プロジェクトに充当するまで、財務担当役員による資金充当状況の確認を毎年実施し、調達資金の充当額と未充当額、未充当額がある場合はその運用方法をウェブサイトにて毎年開示します。なお、調達資金を既存の支出、出資・投資資金に充当する場合は、その金額又は割合を開示する他、調達資金の充当計画に大きな変更が生じた場合は、その変更内容について開示する予定です。

### 【インパクト・レポーティング】

当社は、本フレームワークに基づき発行するグリーンボンドが償還されるまで、守秘義務の範囲内、かつ、合理的に実行可能な限りにおいて、以下の情報をウェブサイトにて毎年開示します。

| 適格プロジェクト                  | レポーティング項目   |
|---------------------------|---|
| SAFの購入                    | $\frac{\text{ANAグループの燃料使用量に占める SAF 使用量の割合 (\%)}}{\text{SAF 使用量}} = \frac{\text{従来航空燃料使用量} + \text{SAF 使用量}}{\text{燃料使用量に占める SAF 使用量の割合}}$ |
| SAFの調達量拡大につながる出資・投資       | 出資・投資先の名称<br>出資・投資の目的   |
| ネガティブエミッション技術の活用のための出資・投資 | 出資・投資先の名称<br>出資・投資の目的   |

以上